

# アサクラサンショウの低樹高安定生産技術

## 【背景・目的・成果】

アサクラサンショウは県北部が発祥の地域特産物で、「但馬ブランド」として振興が推進されていますが、樹高が高く収穫が大変であることや、自然交配による結実の不安定さが指摘されています。

そこで、低樹高栽培(2~2.5m)による収量増と作業性の改善、受粉樹としての雄株の選定・導入による結実向上、施肥改善による収量増により、省力化と収益向上が可能な安定生産技術を開発しました。

## 1 低樹高栽培による作業の軽労化

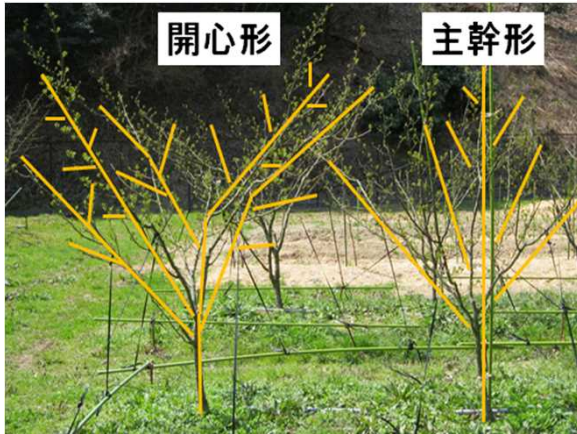


図1 アサクラサンショウ低樹高栽培の樹形

表1 アサクラサンショウの樹形が収量と作業性に及ぼす影響

試験区	収量 (kg/樹)	房重 (g/房)	粒数 (個/房)	粒重 (g/房)	作業時間 (分/kg)
放任	2.20 ab	2.19 b	44.2 b	1.85 b	14.6 b
主幹形	1.58 b	3.09 ab	61.1 a	2.63 ab	11.8 ab
開心形	2.67 a	3.47 a	68.2 a	3.02 a	9.8 a

作業時間: 果実1kg当たりの収穫に要する時間

アルファベットの異符号間は5%水準で有意(Tukey法)

低樹高栽培に適した樹形は開心形(図1左)で、主幹形(同右)より多収です。放任樹より果実品質も優れ、大房となります。また、収穫作業時間も放任樹より短く、楽に作業できることが明らかになりました(表1)。

## 2 雄株の導入による結実安定化



図2 アサクラサンショウ(左)と雄株(右)の開花

表2 雄株からの距離がアサクラサンショウの結実に及ぼす影響

試験区	結実率(%)
雄株からの距離(m)	
2.5m	80.2 a
5.0m	71.5 a
7.5m	61.8 ab
雄株無し	44.6 b

アルファベットの異符号間は5%水準で有意

アサクラサンショウの結実には雄株の花粉が必要で、実際に園地で雄株を導入したところ、半径5m以内の結実は大きく向上し、結実を安定化させる効果が確認できました(表2)。

## 3 春肥施用による収量増加

表3 春肥の量がアサクラサンショウの収量に及ぼす影響

試験区	収量 (kg/樹)	一房重 (g)
N:12kg/10a	5.71 a	4.39 a
N:8kg/10a	5.37 ab	3.78 b
N:4kg/10a	5.19 abc	3.50 b
無肥料(慣行)	4.45 c	2.79 c

アルファベットの異符号間は5%水準で有意

アサクラサンショウの収量増には春肥(3月中旬)が有効で、20~30%の増収効果があり、房も大きくなります(表3)。

## 4 低樹高栽培の効果

表4 低樹高栽培の収益性(10a)

栽培法	粗収益 (千円)	経営費 (千円)	所得 (千円)
低樹高(開心)	1,092	351	741
放任(慣行)	932	426	506

経営費: 人件費を6千円/日(6時間)で、その他経費は20万円で試算

低樹高栽培の導入による収量増と作業時間の短縮で2割強の所得増となります(表4)。

## 【技術の活用】

- ① 成果に基づき栽培指針を作製し、営農指導員、部会員に配布しました。
- ② 営農指導員、部会員対象に剪定講習会を実施しています(図3)。
- ③ JAたじまアサクラサンショウ苗木生産組合にて雄株苗木を増殖中です。



図3 剪定講習会(養父市)